

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2022年 2月 5日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」豊田校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0		祝日や長期休暇時に狭さを感じる。支援内容を考えて行っていく。
	②	職員の配置数は適切である	3	2		日によって違うが祝日、長期休暇で利用者増のとき大変。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1	4	誘導時に混雑したり、指導員が手薄にならないように分散して送迎車に誘導している。	校舎外 2 階にある。物理的に難しいが滑り止めなどを設置。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	0	テーブル、椅子の高さを体形に合わせて使用している。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	0		
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0		
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1		言葉の壁もあり、伝わっていない部分がある。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0		
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0		
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	・共通のアセスメントツールを使用している。	キントーンが導入さて、標準化された。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	1	ガイドラインに沿って、各利用者にあった支援内容になるようにしている。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0		

関係機 関や保 護者 との 連 携	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1	個々でプログラムを立て、悩んだときは相談している。	当日の支援内容などの担当を決めて行っている。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	・ねらいや目的が同じでも教材を変えて活動プログラムが固定しないようにしている。	当日の支援内容などの担当を決めて役割分担しながら行っている。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	5	0	集団療育のなかで、個別に対応している等組み合わせている。	支援内容に応じて、各々が成果につながるよう努力している。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	開始時は送迎、支援内容についてミーティング実施	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	・必要に応じて行っている。 、気になることがあれば共有している。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0		
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0		
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0		
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	1	4	指導員には機会が少ない。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	5	・保育園と連携できる場合もある。 ・医療的ケアの対象のお子様がない。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	5	・医療的ケアの対象のお子様がない。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	4	対象期間との関りは児発管のみで指導員は少ない。 児発管より指導員に伝達。	指導員も関連機関に出向けると良いが、言葉などの課題がある。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	4	対象機関に行くのは児発管のみ。児発管から塩津院に伝達。	指導員も直接行けると良い。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	4	対象機関に行くのは児発管のみ。児発管から塩津院に伝達。	指導員も関連機関に出向けると良いが、言葉などの課題がある。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	4	交流自体の場が少ない。	行事に参加したりするわけではないので交流の場はないため、交流できるとうに検討した。

	⑲	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	4		
	⑳	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	送迎時に指導員より伝達。	保護者が支援を見学できる場があるとわかりやすい。
	㉑	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	3		
保護者への説明責任等	㉒	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1		
	㉓	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0		
	㉔	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0		
	㉕	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	5		保護者同士が意見交換したりできる場を設けて行けると良い。
	㉖	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0		
	㉗	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	3	事業所内、家庭連携など相談支援として行っている。	利用者自身の相談の他に保護者の精神面の相談もある。
	㉘	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0	鍵付きロッカーに収納している。	
	㉙	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	言葉面で難しい場面もあるが、指導員を交えて伝わるようにしている。	
	㉚	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5	地域と交流は無いが、近所などに定期的に挨拶などを行っている。	招待をする機会はないが、関りが持てる工夫をしている。
	非常時等の対応	㉛	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	0	毎月、確認はするが実際には動いての訓練はしていない。
㉜		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	毎月、確認はするが実際には動いての訓練はしていない。	利用者を交えて訓練の実施方法を模索中。
㉝		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0	契約時に確認をしている。	
㉞		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	弁当、おやつ持参。接種時には注意している。	

④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	口頭での共有はしているが文面は確認していない。	
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0		社内研修の他に通常時の対応を周知している。
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	0		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2022年 2月 5日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」 豊田校

保護者等数（児童数）：10 回収数：8 割合：80%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	8	0	0	0		
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	6	1	0	1	・専門性については知らない。	有資格者の採用に努めており、専門性を保てるようにしている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	4	3	1	0	2階にある	送迎時に分散して誘導する対応をしている
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	8	0	0	0		
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	6	0	0	2	計画書は説明してもらっている。	言葉の壁もあり、わかりやすく表現、説明している。
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7	1	0	0		
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	7	0	0	1		
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	7	0	0	1	・いろいろ工夫していただいているが、子どもの好みに合わせてくれている。	・その子の発達段階にそった支援ができるようにしている。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	7	0	0	1	・特に聞いたことがない。 ・特に求めている。	現在、交流の場は設けておらず、必要に応じて検討していく。
保護者への説明	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	7	0	0	1		
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	7	0	0	1	説明してもらいが理解できないこともある	指導員に通訳してもらったり、伝わりやすくしている

明 等	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	7	0	0	1		事業所内相談や家庭連携で行っている。
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	6	1	0	1	子供の支援の様子が見学できる時間があるといい。	保護者が支援を見て、利用者の成長を実感できると良い。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	5	0	0	3	話を来てもらっている。	送迎時や相談支援時に保護者の要望や話を聞いている。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	0	2	6	0	保護者同士が会う機会がない	定期的に保護者同士が情報交換ができる機会を検討していく
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	6	0	0	2	困りごとや相談に対してアドバイスしてくれる。	保護者会や定期的に相談している。
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	7	0	0	1	指導員と話す時間は毎回少し設けていただいている。	
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	0	5	0	3	見て理解できない	HPやブログなど、言葉の課題など、伝わりにくいことが多いため工夫していきたい。完投する。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	8	0	0	0		・個人情報には鍵付きロッカー内に収納している。
非 常 時 等 の 対 応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか		3		5	・まだ参加したことがないため分かりません。 ・訓練されているのか不明です。 ・特にやっていないかと思う。	支援時や開校日等、利用者を変えての訓練を実施できるようにしていきたい。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか		3		5	まだ参加したことがないため分かりません。 訓練されているのか不明です。	支援時や開校日等、利用者を変えての訓練を実施できるようにしていきたい。
満 足 度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	8				週楽しみに通所できている。毎週とても楽しく通えている。	集団、個別の違いはあるが、支援が固定化しないように指導員同士で話し合いをしている。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	7	1			子どものペースで集中して取り組める環境や声掛けをしてもらっていると感じる。	帰ってきて『今日はこれをやった』と作品ややったものを持ち帰らせてくれる。見るのを楽しみにしている。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。